

熊本大学 脳神経内科

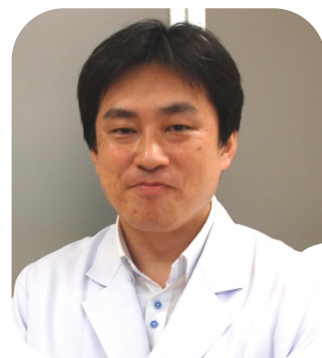
キャリア形成・専門医養成 特別プログラム

2026



ご挨拶

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経内科
教授 植田 光晴



熊本大学 脳神経内科 キャリア形成・専門医養成特別プログラムをご覧いただき心よりお礼申し上げます。

本格的な高齢化社会となり、脳神経内科に期待される役割は極めて大きくなっていますが、幸いにも熊本大学 脳神経内科は、長い歴史と実績を基盤として、高い専門性と幅広い診療を実践するメンバーが揃っています。また非常に充実した教育病院群を持つことは、我々が教育面で提供できる最も大きな財産です。急性期から慢性期、コモンディジーズから希少難病まで、温かな先生方の下で安心して研鑽を積むことが出来ます。

脳神経内科の最も誇れるものは、知識と技術に基づいた正確な診断スキルです。脳神経内科医としてスペシャリストを目指す先生方に加えて、将来的に総合診療やプライマリケアを高いレベルで目指すジェネラリストの先生方も神経診察の習得は必須と考えます。当教室では、多様な研修が可能なプログラムを準備しています。

これまで脳神経内科領域の診療は、わからないことが多く、治療法も限られていました。しかし、医学の進歩と共に脳神経内科領域の診療は大きく変わろうとしています。将来的に神経疾患に対する治療選択は増えてきます。先進的な核酸医薬や、バイオ分子標的薬など、すでに多く実用化されています。脳血管障害に対する血管内治療の実践に伴い、脳卒中診療の常識は変わりました。これから、認知症に対する新規治療法が臨床応用され、神経難病に対する治療薬も開発されると思います。頭痛やてんかん診療も新しい治療薬の登場と共に大きく発展すると期待できます。

熊本大学 脳神経内科は、共に活動してくれる先生方が安心して研鑽を積み、充実した医師人生を過ごす一助となることを願っています。是非、仲間に加わって頂けることを心より願っております。



「脳神経内科」のニーズと魅力

-多様なキャリアパスと将来性-

脳神経内科は、内科医としてのジェネラリストの視点と臨床神経学のスペシャリストとしての専門性を併せ持つ診療科です。患者さんの「何気ない一言」やわずかな身体的変化から診断へと導く、高度な診断能力が身に付くことも脳神経内科の魅力の一つです。また、最新の治療法を通じて、これまで治療が困難とされていた疾患に対しても大きな進歩を遂げており、今後も患者さんのQOLの向上や予後の改善がさらに進むことが期待されます。診療領域が多岐にわたるため、多様な働き方やキャリアパスに柔軟に対応できる点も、大きな魅力と言えます。

◆高い社会的ニーズ

頭痛、めまい、しびれ、もの忘れなどを主症状とする脳神経疾患は、日常生活機能や生命予後に大きく影響します。また、高齢化社会では脳卒中や認知症、パーキンソン病などの神経疾患が増加するため、脳神経内科医のニーズはこれまで以上に高まっています。

◆広範な診療領域と多様なキャリアパス

脳神経内科は、急性期脳梗塞に対するインターベンション、神経免疫疾患に対する分子標的治療、神経変性疾患に対する核酸医薬など、先進的な治療法が著しく発展している分野です。根治が難しい病態においても、患者さんに寄り添ったケアやマネジメント、さらにはリハビリテーションなど多角的なアプローチを実践しています。また、ジェネラリストとして全身管理を行うことにより、患者さんの日常生活機能や生命予後の改善を目指しています。これら多様な診療領域の中で、自身の関心分野や個々のワークライフバランスに最適な環境を選び、活躍することが可能です。将来的に地域の中核病院での活躍を目指すこともできれば、自らの興味をさらに掘り下げ、本格的な基礎研究や臨床研究の道に進むことも可能であり、多様なキャリア志向に対応しています。



◆家庭とキャリアの両立

脳神経内科で身につく高度な専門知識と診察技術は、医師として一生の強みとなります。そのため、産休や育休を経ても円滑に復職でき、家庭と仕事を両立しながら専門性を磨き続けることで、着実なキャリアアップが可能となります。実際に男女ともに脳神経内科医は全国的に増加傾向にあり、熊本においても同様です。

◆研究の将来性と治療法の開発

かつて脳神経内科領域は、「診断は可能であっても有効な治療法が存在しない」とされてきました。しかし、近年の研究の進展により、この状況は大きく変わりつつあります。遺伝子治療、分子標的薬、抗体治療など、これまでの治療体系を超えた新たなアプローチが開発され、既に臨床応用が始まっています。基礎研究と臨床研究の連携が進む中で、診断技術や治療法のさらなる高度化が期待されており、今後も医療の現場に革新をもたらすことが予想されます。このような変遷の中で、当該分野の知識と理解を深めることは、極めて重要な意義を持つものと考えられます。

「熊本大学 脳神経内科」だからできること

-豊富な臨床経験と多様性のある医局-

熊本大学脳神経内科は、豊富な臨床経験が積み、協力体制もしっかりしています。また多様な背景の先生が入局し、それぞれのフィールドで活躍しています。ぜひ熊本大学脳神経内科に入局し、共に新たな医療の可能性を切り拓いていきましょう。

◆各領域のスペシャリストとの連携と知識の吸収

熊本大学脳神経内科には、ナンバー内科時代からの長い歴史を有し、脳卒中、神経変性疾患、神経免疫疾患、機能性疾患など、幅広い領域のスペシャリストが集結しています。これまでアミロイドーシス診療と研究で世界を牽引し、脳血管障害に対する内科的アプローチでも革新的な実績を積み重ねてきました。今では、多彩なサブスペシャリティを持つ医師が集まり、互いに切磋琢磨できる恵まれた環境であると自負しています。自らの専門性を高め、未来の神経内科医療を切り拓きたい方にとって最適な環境です。

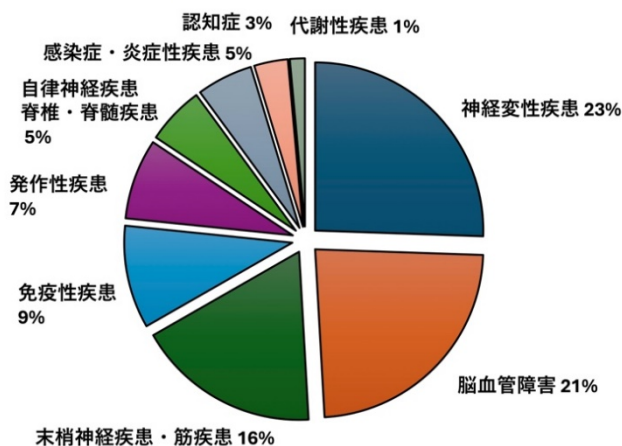
◆豊富な臨床経験と協力体制

熊本大学脳神経内科は、一般病床 31 床、SCU（脳卒中ケアユニット）3 床を有し、年間 600 人を超える多様な患者さんを受け入れています。国立大学病院の脳神経内科としては、全国でもトップクラスの病床数・入院患者数を誇り、豊富な臨床経験を積むことができます。

当科ではチーム診療制を導入し、患者一人ひとりに対して質の高い医療を提供するとともに、病欠や学会出張などにも柔軟に対応できる働きやすい環境を整えています。産休・育休制度も充実しており、ライフワークバランスを保ちながらキャリア形成が可能です。また、医療専用コミュニケーションアプリ「Join」を活用し、緊急時にはリアルタイムで上級医と連携できる体制を整えています。このように、安全かつ効果的な医療を提供しながら、専門医として成長できる環境が当科の魅力です。

実際に、令和 5 年度は 6 名、令和 6 年度は 4 名、令和 7 年度は 10 名の先生方が新たに入局しています。

2024年 入院患者数: 628名



◆多彩な経歴と多様なキャリアパス

熊本大学脳神経内科では、熊本県内の関連病院との連携が強固で、地域医療と連携した研修体制が確立されています。また、修学資金貸与（地域枠）医師や自治医大卒医師、他の分野で修練を積んだ医師など多様な先生が多数入局し活躍している実績があります。国内外への留学実績も豊富で、志向に応じたキャリアアップが可能です。臨床の現場で経験を積んだ後、基礎研究や学術活動に専念する

道、あるいは他分野から転向して新たな視点を取り入れるなど、個々の目標に合わせた多様なキャリアパスを用意しています。また安心して活躍できるように収入面にも配慮し、柔軟な調整を行なっています。

入局	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目以降
----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

内科 専門医 試験	神経内科 専門医 試験
-----------------	-------------------

一般脳神経内科 コース 脳卒中修練 コース リハビリテー ション修練 コース 神経科学研究 コース	初期臨床研修 (他分野で修練 された先生も Welcome!)	大学病院	急性期病院 難病拠点病院 地域中核病院	(希望に応じて) 国内留学 大学院・社会人大学院
			急性期病院 地域中核病院	(希望に応じて) 国内留学 社会人大学院
			急性期病院 難病拠点病院 地域中核病院	リハビリテーション病院など (希望に応じて) 国内留学・社会人大学院
			急性期病院 難病拠点病院 地域中核病院	大学院 大学病院

熊本県全域の魅力的な教育病院群

熊本大学脳神経内科と関連病院では、急性期から慢性期、コモンディーズから希少難病まで、非常にバランス良く脳神経内科疾患の診療を学ぶことができます。充実した脳卒中急性期病院、神経難病拠点病院、リハビリテーション専門施設、地域拠点病院など、国内でも有数の教育病院群で脳神経内科専門医取得をサポートします。幅広い脳神経内科診療を高いレベルで実践することが出来る真の実力が身につきます。

<熊本大学脳神経内科の関連病院>

- 熊本大学病院
- 脳神経内科 関連病院
- 外来診療応援病院など

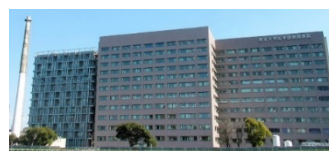
関連病院

済生会熊本病院
熊本赤十字病院
熊本医療センター
熊本市民病院
熊本再春医療センター
熊本南病院
くまもと南部広域病院
有明医療センター
熊本労災病院
熊本総合病院
水俣市立総合医療センター
そよう病院
熊本機能病院
熊本託麻台リハビリテーション病院
西日本病院
山鹿中央病院
宇城総合病院
杉村病院
阿蘇医療センター

外来診療応援病院

熊本地域医療センター
西村内科・脳神経外科病院
朝日野総合病院
熊本回生会病院
桜十字病院
新生翠病院
くまもと県北病院
菊池郡市医師会立病院
天草地域医療センター
天草第一病院
長野内科小児科医院
山田クリニック
大牟田天領病院
高千穂町国民健康保険病院

熊本大学病院



熊本医療センター



熊本赤十字病院



済生会熊本病院



熊本市民病院



熊本再春医療センター



熊本機能病院



◆安定した勤務環境, 恵まれた生活環境

熊本大学脳神経内科の関連病院は全て熊本県内の医療機関です。常勤スタッフとしての安定した勤務環境が保証されます。休日は、森と水の都 熊本、阿蘇、天草など恵まれた環境でリフレッシュできます。

◆将来性, 幅広い選択肢, サポート体制

脳神経疾患の診療は将来的にますます重要になります。脳卒中などの急性期から神経難病、リハビリテーションなど幅広い領域をカバーします。志向する専門性の研鑽、専門医取得、留学などもサポートします。

熊本で活躍する脳神経内科医のご紹介

岡本 定久 （平成 10 年久留米大学卒、荒尾市立有明医療センター）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

大学卒業後、generalist になりたいという希望から川崎医科大学高度救命センターで 4 年間勤務。多様な疾患を見ていく中で、脳血管障害や脳炎・脳症など脳神経疾患への興味が強くなりました。熊本が地元であり熊本大学脳神経内科に入局、済生会熊本病院・大学病院で研修しました。大学ではアミロイドーシスの臨床研究に従事させていただき、その縁で留学する機会を得ることができました。



その後は、大牟田・荒尾で神経救急から回復期・生活期リハビリ、変性疾患・片頭痛・認知症など地域医療に貢献できるよう仕事をしています。

脳神経内科を志望して思うこと

診察所見が非常に重視されており、他の診療科とは違う点で面白いと感じています。診断・治療に難渋する症例を時々経験することがあり、対応するために常に知見を深めていく必要があります。また、疾患を治療するのみでなく、それぞれの患者さんの生活をいかに安心して過ごせるか考えていくことも脳神経内科医としては大事な役割と考えます。

将来の目標

脳神経内科を軸とした総合内科医のような仕事ができればと思っています。

プログラムを検討中の先生への一言

高齢化社会で複数の疾患を有している方が増えています。認知機能・歩行・嚥下機能など多くの障害に対応していく必要があります。脳神経内科の知識があると、これらの障害に対する理解が深まり、よりよい医療を行うことができると思います。

松原 崇一郎 （平成 21 年大分大学卒、熊本大学病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

私は大分大学医学部を卒業後、福岡徳洲会病院で初期研修その後、総合内科として計 4 年間の研修を経て、地元である熊本の脳神経内科に入局しました。学生時代から神経分野に興味があり、臨床経験を重ねる中で急性期疾患に関心を抱くようになりました。大学および熊本赤十字病院で研鑽を積む中で、国内留学として大阪の国立循環器病研究センターにて脳卒中診療および臨床研究について学ぶ機会を得ました。そこで脳卒中後てんかんについての研究を始めたことがきっかけで、てんかんおよび脳波診療に強く惹かれるようになりました。現在では、「脳卒中・てんかん・神経救急」が自分のライフワークであると感じています。熊本では成人領域で唯一、てんかん診断や神経救急における長時間ビデオ脳波モニタリングを実施・指導しており、正確な診断と適切な治療の提供に努めています。また、大学に戻ってからは病棟長として 2 期目を務めており、3 期目も予定されています。大学病院における診療の質の担保・向上、そして後進の指導にも力を注いでおります。



将来の目標

脳波を含めた神経救急・集中治療の実践と普及、そして熊本におけるてんかん診療の向上と均てん化（地域間の格差是正）を目指しています。脳神経内科だけでなく、脳神経外科・小児科・精神科・救急・集中治療の先生方とも連携しながら、熊本においてより良い医療を提供できる体制を構築したいと考えています。

プログラムを検討中の先生へ一言

熊本の脳神経内科は、脳卒中を中心とした神経救急医療と、神経変性疾患などの慢性疾患の診療を両立して行っており、幅広い経験を積むことができます。また、大学ではアミロイドシス診療センターなど専門性の高い診療を行っており、関連病院では脳卒中ハイボリュームセンターとして高水準の研修を県内で完結できるという、非常に恵まれた環境が整っています。さらに、国内・国外への留学の機会もあり、専門性をさらに高める場を求めることも可能です。多様な症例を通じて臨床能力を向上させるだけでなく、研究活動を通じて医学の発展に貢献する機会も豊富に用意されています。

私自身、日々学ぶことが多く、成長の連続です。もし当プログラムで研修いただけるのであれば、共に切磋琢磨しながら、より良い医療を目指していきましょう。

長尾 洋一郎（平成 24 年熊本大学卒、済生会熊本病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

私は平成 26 年に熊本大学脳神経内科に入局し、その後は熊本大学病院、熊本再春医療センター、熊本赤十字病院にて神経内科疾患について研鑽を積んできました。

さらに、血管内治療専門医の取得を目指し、兵庫医科大学に国内留学をする貴重な機会をいただきました。熊本に戻った後は、熊本赤十字病院にて 1 年間勤務した後、令和 3 年から現在の済生会熊本病院に勤務し、血管内治療を中心とした診療を行っております。



脳神経内科を志望して思うこと

学生時代から脳神経内科に興味を持っていましたが、いろいろな選択肢の中のひとつでした。そんな私が脳神経内科に進む決心をしたのは、研修医時代に脳梗塞患者が搬送され、血管内治療で劇的に症状が改善するのを目の当たりにしたことがきっかけでした。当時は脳梗塞に対する血栓回収療法はまだ確立されておらず、エビデンスも十分ではありませんでした。しかし、2015 年にエビデンスが確立し、そこからさらに新しい手技やデバイス、また治療適応に関するエビデンスが次々に生まれ、この分野は飛躍的に進歩しました。私自身の成長とともに、医療の進化を間近で感じられることは大きな喜びです。血管内治療の発展に少しでも貢献できていることを誇りに思います。

将来の目標

血管内治療専門医を取得してからは、技術向上を第一に考え日々努力をしてきました。しかし、熊本の医療の発展を考えると、後輩の育成こそが今後の大きな課題だと感じています。私が先輩方から熱心なご指導をいただいたように、次世代の医師たちにも血管内治療の知識や技術を伝えていきたいと思っています。

プログラムを検討中の先生へ一言

脳神経内科は、まだまだ未開拓の分野が多く、進歩が目覚ましい分野です。近年では血管内治療の発展だけでなく、片頭痛や認知症に対する新しい治療法が次々と登場し、驚くほどの進歩を遂げています。

医学の最前線で日々進化する治療を経験できることは大変魅力的で刺激的です。少しでも興味があれば気軽にご連絡ください。

今村 美智恵 （平成 25 年長崎大学卒、熊本大学病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

長崎大学を卒業後、長野県の諏訪中央病院で初期研修と一年間内科後期研修医として勤務しました。学生時代に脳神経内科に進むことは決めていましたが、一般内科医としての基礎を身に付けたいと考え、急性期から終末期、外来や往診と幅広く経験を積める病院で研修しました。4 年目から当科へ入局し、大学病院や、難病拠点病院をローテーションさせていただきました。現在は 3 回目の育休から復帰し大学病院で勤務しています。



脳神経内科を志望して思うこと

疾患が幅広く、まだ同じ疾患であっても患者さんによって経過や症候が様々であり、興味が尽きない科だと感じています。診断にたどり着くまでに難しさもありますが、その分やりがいと充実度を感じます。また、日々新しい検査や治療法も見つかっており、発展目覚ましい分野です。急性期から慢性期、地域に関わらず、いずれの場面でも必要とされる科であると感じています。

将来の目標

特に興味があるのは、神経免疫で、現在分子標的薬などの導入で治療選択肢が広がってきている分野です。個別化医療が進んでいく中、疾患に加え患者さんの生活背景なども含めた治療選択を提供できるよう、知識を深めていきたいと考えています。

プログラムを検討中の先生へ一言

「難しい」と敬遠されがちな科と思いますが、少しずつ経験を積む中で確実に自分の技術として成長を実感できる科です。現在私は育児があるため、時短で勤務していますが、その中でも専門医取得や病棟業務などキャリア形成できるように、対応いただいています。特に女性医師の場合家庭との両立に悩まれる方も多いと思いますが、色々な勤務形態での相談も可能です。ぜひ一緒に働きましょう。

田口 智朗 （平成 26 年熊本大学卒、熊本大学大学院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

大学卒業後、医師としての修練を奈良で 8 年間積み、令和 4 年度から熊本大学脳神経内科へ入局させていただきました。令和 5 年から大学院生として、植田教授のご指導のもと研究に従事させていただいております。現在は主に遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの病態解析や脈絡叢にフォーカスした研究をさせていただいており、刺激的な日々を過ごしています。



脳神経内科を志望して思うこと

初期研修医の時分、私の恩師の一人から、「眼の前の患者が教科書である。その患者から学ばずして医師としての成長なし。」とのお言葉をいただいたことを忘れられません。その影響もあって、私はこの脳神経内科を志望いたしました。脳神経内科は、問診に加え、詳細な診察あるいは特殊な検査手法を駆使して眼の前の患者に生じている病態を考察するという意味で「患者から学び尽くす」ことができる診療科であると考えておりま

す。特殊な診察法あるいは検査法にしても、“その病態を明らかにしたい”という先人たちの強烈な欲求から生まれた叡智であると考えると感慨を深くせざるを得ません。そのような方法を駆使して眼の前の患者の一助となることができるだけでなく、そこから学び、新たな発見をすることができることに日々感謝しています。

将来の目標

General Neurologist を信条に、診療・研究で世の中に貢献ができるような仕事をできたらと思っています。特に新たな治療法への開発に携わりたいと思っています。

プログラムを検討中の先生へ一言

病院にもよりますが、二次救急まで言えば神経科領域の愁訴を呈する患者は非常に多くの割合を占めます。特に高齢化社会の煽りを受け患者数が増加している脳梗塞では、主幹動脈閉塞に対する IVR 治療が可能となり、患者予後が著しく改善しました。また、慢性疾患に関しても、近年では分子標的薬による免疫治療や核酸医薬による遺伝子治療も可能になってきており、治療可能な疾患が日々増えてきています。しかしながらまだまだ治療ができない疾患が多いことも事実であり、日々世界の研究者がその治療開発に心血を注いでいます。そのような実情を踏まえ、的確で迅速な診断と治療、さらに研究領域における我々神経科医の重要性はさらに高まっていると思います。日常診療でも、研究領域でも大きな役割を担うことができる脳神経内科で一緒に頑張っていきましょう。

詹 翔叡（令和 3 年熊本大学卒、水俣市立総合医療センター）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

地域枠学生として熊本大学に入学し、卒業後は済生会熊本病院で初期研修を行い、脳卒中に興味を持ち脳神経内科に入局しました。3 年目は熊本大学病院で基礎から勉強させていただき、4 年目から現在は水俣市立総合医療センターで勤務しています。水俣市立総合医療センターは芦北・水俣に加え、鹿児島県の出水市や伊佐市の一部といった県境を跨いだ医療圏をカバーしている病院で、脳神経内科一般から難病を含む専門領域まで幅広く診療を行っています。



脳神経内科を志望して思うこと

脳神経内科は臨床推論の基本である問診と身体所見を最も重視する診療科であると考えています。病歴、経過、既往、生活歴などを聴取し、神経診察を行って責任病巣を推定し、鑑別疾患を挙げ検査を組んでいくということを繰り返し行っていくため、経験を積み重ねれば積むほど内科医としての実力が上がっていきます。また、主訴の幅広さは全診療科の中でも圧倒的かつ同じ主訴でも 1 人 1 人の症候は千差万別であり非常に面白いです。

将来の目標

脳梗塞に対する血管内治療に興味があり、脳血管内治療専門医を目指しています。まずは内科専門医や脳神経内科専門医取得から目指します。

プログラムを検討中の先生へ一言

地域枠でも義務を果たしながら専門研修を行うことができる体制が整っています。また、地域枠の先輩も数名いらっしゃるためアドバイスも貰いやすいです。少しでも脳神経領域に興味があれば是非大学や当院に見学に行ってください。

病院見学・お問合せ窓口

熊本大学 脳神経内科キャリア形成・専門医養成特別プログラムについてご興味のある方、ご質問、見学のご希望などお気軽にご連絡ください。

熊本大学 脳神経内科学講座 中原圭一（医局長）
Tel: 096-373-5893
E-mail: k1nakahara@kuh.kumamoto-u.ac.jp



熊本大学大学院生命科学研究部
先端生命医療科学部門
脳・神経科学分野 脳神経内科学講座
〒860-8556
熊本市中央区本荘1丁目1番1号
TEL 096-373-5893（代表）
FAX 096-373-5895